

図書館だより

開館時間(共通) 9時～17時30分

☎ 中央図書館 0558-76-5566

☎ 葦山図書館 055-949-8605

URL <http://www.izunokuni.library-town.com/>



今月のおすすめ

一般

【中央】
【葦山】



ゆうべの食卓
角田光代／著
オレンジページ

「食べたい料理は腹を満たす、作りたい料理は心を満たす。」食卓には、一人の、二人の、家族の、心の変化や関係の在り方が表れる。ささやかであたたかい食卓の記憶。

一般

【中央】



お菓子の船
上野歩／著
講談社

祖父が生前に作ってくれた特別などら焼きを再現すべく、和菓子職人の第一歩を踏み出す和子。職人世界の荒波の中、祖父の過去を調べ、知らなかった一面を見つける。

一般

【葦山】



本のない、絵本屋クッタラ
標野凧／著
ポプラ社

広田奏と共同経営の八木が切り盛りする本屋兼カフェ。奏は、客の悩みに耳を傾け、後日悩みに寄り添う絵本をそつと差し出す。それは時に温かく、時に秘密を持っている。

一般

【中央】



牧野富太郎
—雑草という草はない—
青山誠／著
KADOKAWA

1,500種以上の新種を発表、40万点以上の植物標本を採取した「日本植物学の父」の伝記。朝の連続ドラマ主人公のモデルとして注目の牧野富太郎の天真爛漫な人生。

新着本コーナーから

- 一般 神無島のウラ あさのあつこ／著【葦山】
- 一般 君に光射す 小野寺史宜／著【中央・葦山】
- 一般 白ゆき紅ばら 寺地はるな／著【中央・葦山】
- 一般 探偵は田園をゆく 深町秋生／著【中央】
- 一般 三国志名臣列伝 蜀篇 宮城谷昌光／著【中央】
- 一般 鍵のいらない生活—スマートホームの教科書— 小白悟／著【葦山】

5月の図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
	①	2	3	4	⑤	6
7	⑧	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

○ 中央休館日 □ 葦山休館日
◇ 両館休館日 ☆ おはなし会

5月のおはなし会

中央図書館 13日(土) 11時～
葦山図書館 27日(土) 11時～
※事前申し込み不要

くぬぎ会館こども広場

18日(木) 10時10分～

※予約制 ☎ 0558-76-1346

お知らせ

紙芝居を楽しもう!

4月23日から5月12日はこどもの読書週間です。子どもにも、子どもの周りの大人にも、読書の大切さを知ってほしいとの願いから、今年は図書館で紙芝居を展示しています。

紙芝居は、誰かと一緒に楽しむものです。親子で、兄弟で、友だち同士で、紙芝居を楽しんでください。

また、期間中本を借りてくれたお子さんに、こどもの読書週間のオリジナルしおりをプレゼントしています。

期間／5月25日(木)まで
場所／中央・葦山図書館

文化財通信

その215

変わりゆくもの・変わらないもの —筆記用具—

☎ 文化財課 ☎ 055-948-1428



▲左：大正～昭和時代の硯 (伊豆の国市郷土資料館所蔵)
右：戦国時代の硯 (葦山城跡三ノ丸出土)

「変わりゆくもの・変わらないもの」、今月は、先月の教科書に続き、学習の必須アイテムである筆記用具の歴史を振り返ってみます。

「筆記用具」という言葉どおり、日本では、墨をすり、和紙に筆で文字を書くことが長く続いてきました。『日本書紀』によれば、610年に高句麗の僧が製紙と製墨の方法を伝えたとき、以来、明治時代中頃に国内で鉛筆が製造されるまでの約1,400年間、筆と墨が筆記用具の中心でした。現在は、筆を使う機会は減り、書道や慶弔の場などに限られますが、「弘法は筆を選ばず」「筆がすすべる」などのことわざや言



▲左：出土した石盤 右：石筆 (御所之内遺跡出土)
御所之内遺跡付近には、明治時代に「堀越高等学校」がありました。

い回しに名残が残っています。

一方、墨をすり、和紙に筆で文字を書くことが長く続いてきました。『日本書紀』によれば、610年に高句麗の僧が製紙と製墨の方法を伝えたとき、以来、明治時代中頃に国内で鉛筆が製造されるまでの約1,400年間、筆と墨が筆記用具の中心でした。現在は、筆を使う機会は減り、書道や慶弔の場などに限られますが、「弘法は筆を選ばず」「筆がすすべる」などのことわざや言



▲石盤 (伊豆の国市郷土資料館所蔵)

「海」という基本的な構造は今も昔も変わりません。また、近世・近代になると、硯に装飾的な彫刻を施したり、凝った容器に入れるなどの変化が見られます。

さて、明治時代になり近代教育がはじまると、「石盤(石板)」と「石筆」という文具が使われるようになり、「石盤」とは、薄い

明治時代後半になると、洋紙のノットと鉛筆が普及するようになり、石盤と石筆は使われなくなりまし

た。最近では、デジタル教材の普及により、タブレット端末を使った学習が行われるようになり、さらに新しい時代に入ったと言えます。

市役所長岡戸舎1階ロビーにて、文化財通信で紹介した資料の一部を展示しています。ぜひご覧下さい。

粘板岩などの板で、「石筆」は、蠟石や滑石を棒状にしたものです。ノットと鉛筆の代わりに使い、黒板のように書いた文字を消して繰り返し使えましたが、文字を残しておくことはできませんでした。